

路が抑制されることで局所的にP4レベルが維持され、脱落膜化が促進されることが示唆された。

P3-48

チーム医療の質的向上を目指したシミュレーション教育の効果—ノンテクニカルスキルの視点から—

(専攻生：医療の質・安全管理学)

○大野木恵子

(医療の質・安全管理学)

三木 保

本研究では、医療者自身が起こすヒューマンエラーを減らすために、ノンテクニカルスキルをシミュレーション教育にて実施することで、結果的に患者安全が守られる可能性について焦点を当てた。

そこで、医療者から構成されるチームに、チーム医療の質的向上を目的とする臨床に即したシミュレーション教育を企画実施したので、この研修の教育効果について考察を加えて報告する。

今回、特にノンテクニカルスキルの客観的評価の方法として、被験者の行動内容評価をカメラによる行動観察で行った。

研究方法は、医療者のチームに臨床に近いシミュレーション教育を反復体験させる。(シミュレーション教育の概略は、アナフェラキシーショックを起こした患者に対し、正しく6Rで対応が出来きているかどうかである。)実際のシミュレーションにおいては、参加者の頭にウェアラブルカメラ(Panasonic社製 HX-AI-D)を装着し、ノンテクニカルスキルの状況、すなわち言語を含んだ行動様式を評価した。

研究対象は、東京医科大学病院勤務の看護師10名(臨床経験年数2年目から7年目。平均3.5年目)。研究期間は、2017年5月から11月。

その結果は、参加者の行動様式の評価を行ったところ、ノンテクニカルスキル①患者の状況説明を行う、②アイコンタクト、③手振りの回数の検討対象行動が1.5~5倍に増加した。

医療者チームの薬剤の適正な投薬を示すRの数がその研修で増加し、正しい投薬の対応が実施されるようになったことが認められた。

従って、チームにノンテクニカルスキルをシミュ

レーション教育で実施することは、ヒューマンエラーを減少、結果的に患者安全が守られる可能性が期待できるといえる。

本パイロットスタディによって、医療チームにノンテクニカルスキルを磨く教育研修をシミュレーション教育で実施することで、ヒューマンエラーを減少する可能性が示唆された。臨床に即した体験型研修の実施は、チーム医療の質的向上の可能性が期待できるといえる。

今後は、多数例の検討を行う予定である。

P3-49

模擬患者を経験した医科大学職員の意識調査

(総合診療科)

○原田 芳巳、平山 陽示

(医学教育推進センター)

窪田 裕紀、山科 章

(医学教育学)

三苫 博

(総合診療科、北海道大学医学研究院：医学教育・国際交流推進センター)

大滝 純司

【目的】客観的臨床能力試験(OSCE)の拡がりとともに、さらに多くの模擬患者(SP)が必要になると考えられる。本学では2017年度の卒業時OSCEで、学外SP団体に加え、職員もSPとしてOSCEを担当した。一方、大学職員にスタッフ・ディベロップメント(SD)の機会を設けることが求められている。職員がSPとして参加することで、意識の変化があったか、SDの一環として役立っているかどうかを明らかにすべく調査した。

【方法】2017年7月26日に行われた本学の卒業時OSCEにSPとして担当した職員12名を対象に半構造化面接調査を実施し内容分析した。

【成績】10名の参加が得られた。教育に関する職種の経験がある者は3名、「OSCE」および「SP」を具体的に知っていた者は、それぞれ3名と2名(いずれも10名中)だった。SPを経験した感想などでは、「試験や学生の様子などがわかった」「最初は緊張したがだんだん慣れた」「教育現場を実感した」「知識偏重でなく技術・態度もみるということをこれからもやっていくべき」「楽しかった」など肯定的な